



2011.3.11 東日本大震災

現地支援委員会

from 東北

ニュースレター

「第32号」

2017年11月22日

全国諸教会・伝道所の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。東北では今年も冬の寒さが始まりました。耐用年数が2年とも言われている仮設住宅は、この6年でいたる所が傷んでいます。そのような仮設住宅で厳しい東北の冬を迎える方々の生活と健康が支えられますようにお祈りください。今号では、郡山コスモス通り教会による緑ヶ丘仮設住宅支援の様子をお届けします。

福島は今 緑ヶ丘東7丁目仮設住宅訪問 郡山コスモス通りキリスト教会報告

郡山コスモス通りキリスト教会が福島県富岡町（福島第一原子力発電所から5～10キロの位置）から避難をしてこられた方々が集まっておられる緑ヶ丘東7丁目仮設住宅に訪問させていただくようになったのは2011年8月からでした。あれから7年目を迎えております。昨年までは月一度訪問させていただき、昨年からは2か月に一度伺わせていただいております。当初は200世帯400人を超える方がお住まいの仮設住宅でしたが、今では40世帯50人ほどに減少しました。夕方、仮設訪問の案内状をお配りにいくと、ポツンポツンと部屋の電気が灯り、ととても寂しいです。

集会の様子

毎回、仮設にお伺いし、マッサージ師（教会員）による施術、体操、小物作り、お茶会 歌声喫茶を行います。他の教会から、あるいは他の連合から応援がありボランティアの人数が多い時はマンツーマンでできる体操やゲーム、手もみなどをさせていただき笑い声が溢れます。避難生活7年目。仮設の方々は長引く仮設生活の中で、緑黄色野菜やたんぱく質が不足しがちです。さらに大腸がんや肝臓がん、高血圧、脳梗塞になる方が増えてきたため、今年9月から集会のプログラムの中に「10食品群チェックシート」を配布して毎日バランスの良い食事をとることを推進する活動を取り入れました。10食品群から一つをとりあげ、例えば「緑黄色野菜」とは何か、「油」にはどのような種類があり、何をどのように使ったらよいのかななどをクイズを交え一緒に考えます。そして次回までの2か月分のチェックシートをお配りしてバランスのよい食事生活を選び取っていただけるように声をおかけします。

今回は「大豆」について学ぶ予定です。



課題

富岡町は福島第一原子力発電所事故に伴い、帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域の3つに区分けされておりました。当町において設定された居住制限区域及び避難指示解除準備区域については、2017年4月1日午前0時をもって帰還困難区域を除く避難指示区域が解除されました。しかし、町に帰られた方は少なく、町外に住むことを決断された方が多いのが実情です。また、町に帰りたくても復興住宅や老人ホームの整備が整わず、帰れる日を待っておられる方も多くおられます。東日本の多くの仮設住宅は2018年3月31日をもって閉鎖します。しかし緑ヶ丘仮設住宅の閉鎖は、最低一年、延長になりました。仮設から出て新しい居住地から私たちの訪問日に車で来てくださる方がおられます。引っ越した所は知らない人ばかり。行事もない。仮設から出て、また新たな孤独の生活の始まり。人間関係を一から作り直す苦勞が始まったとのこと。結局、家族、町民が分断された今を迎えておられるのです。毎月、訪問日に合わせて

クッキーを贈ってくださる教会やクリスマスにプレゼントを贈ってくださる教会、毎年ボランティアを募って来てくださる神奈川連合のお働き。そして、全国の皆様の祈りと捧げ物で私たちはこの働きを今まで続けて来ることができ感謝でいっぱいです。次年度からどうしたらよいのか、何を主は願っておられるのか、これからの支援の在り方について、主の導きがありますようにどうぞお祈りください。

（金子 千嘉世）

かせつにいくと もりやま のぞみ

かせつにいくとおじいさんおばあさんたちがいるのでときどきします。かせつにといくといつもたいそうをしたりおちゃをのんだりゲームをしたりしています。たのしいじかんです。わたしもざぶとんをはこんだり、いっしょにこうさくをしたりして、すごしています。



思いに寄り添って

守山 寛子

仮設住宅の支援は、準備から金子千嘉世牧師が関わってくださり、当日は信徒の方やボランティアの方から声掛けを頂いて励まされています。来られた方が娘たちの成長に「大きくなったね、歩けるようになったんだね」と目を細め、雑談にも笑顔をもって応じてくださいます。体操で体をほぐし、ゲームや簡単な作業、お茶タイムが終わった後、千嘉世先生のお話に耳を傾けます。仮設の方も支援者も、語られる言葉に静かに聞き入り、祈りにも似たその時間、私達はネットを通して語る千嘉世先生を思い、先生も「大変なことはないですか、困ったことはありませんか」と心寄り添ってくださり、私たちは一つ思いとされています。

頂いたぬくもりと笑顔で心が温まり、準備から沢山の恵みを頂く仮設の支援、神様の祝福溢れるご計画の中に私も招かれていることに感謝しています。

6年間

守山 直樹



2011・3・11から6年8か月。東日本大震災発生時は、まだ長女が産まれて間もないころでした。東日本大震災後に緑ヶ丘仮設住宅が整備されてから度々仮設住宅支援のお手伝いをさせていただいてきました。大震災直後から、被災地支援の働きを担ってきた金子千嘉世先生が郡山コスモス通り教会に着任されました。金子先生から被災地、仮設住宅にお住まいの皆さんのお話をたくさん聞かせていただきました。その金子先生が療養されることになり、私たち家族の小さな働きでも用いてもらえるなら、今は家族4人で仮設住宅支援に関わらせて頂いています。

6年間の時間に、様々な変化がありました。私たちにも次女を授かりました。200世帯ほどだった仮設住宅は40世帯あまりになりました。やがてそう遠くないうちに仮設住宅も閉鎖されることでしょう。でも、2か月に1度の仮設支援の日を訪れる方はまだまだおられます。欠かさず顔を出してくださる方や遠くに引っ越されて金子先生に直接連絡を取られる方もいらっしゃいます。これが6年間で築かれてきたものなのだと思います。そして、コミュニティや人とのつながりが必要だという証です。今後、また各地に移っていくことになり、新たな生活を始められた方々を支えたり励ましたりするような働きが必要になってくるのだろうと感じています。